

2012年12月20日

日本電工株式会社

弊社徳島工場における土壌調査の結果と対策について

弊社は本年12月末をもってクロム塩事業を日本化学工業株式会社へ譲渡し、徳島工場でのクロム塩類生産を終了いたします。弊社はこれを契機とし、徳島工場での今後の事業活動における環境保全強化を目的として、同工場敷地の自主的な土壌調査を行いました。また、その結果を踏まえ、今後の対策について検討いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1.調査の概要

- 1) 調査場所 : 弊社徳島工場 (阿南市橘町幸野 62-1)
- 2) 調査実施者 : 土壌汚染対策法上の指定調査機関
- 3) 調査期間 : 2012年6月~8月
- 4) 調査概要
 - (1) 調査項目 : 六価クロム
 - (2) 調査内容 : a. 土壌調査 (土壌溶出量試験、土壌含有量試験)
 - 採取地点数 28 地点
 - ボーリング深度 15m、各地点 16 深度、合計検体数 448 検体
 - b. 地下水調査 (地下水試験)
 - 採取地点数 28 地点(上記 a.と同一地点)、合計検体数 28 検体

2.調査結果

- 1) 土壌溶出量試験 (基準 0.05mg/L 以下)
 - 28 地点 (448 検体) 中 8 地点 (16 検体) で基準不適合を確認。
 - 基準不適合最深深度は 8m、最大値は 20mg/L。
- 2) 土壌含有量試験 (基準 250mg/kg)
 - 28 地点 (448 検体) 中 1 地点 (2 検体) で基準不適合を確認。
 - 基準不適合最深深度は 1m、最大値は 330mg/kg。
- 3) 地下水試験 (基準 0.05mg/L 以下)
 - 28 地点 (28 検体) 中 4 地点 (4 検体) で基準不適合を確認。
 - 最大値は 790mg/L。

3.対策（案）

1）恒久対策（案）

(1) 区域 A（土壌含有量試験及び地下水試験にて一部基準不適合）

- ・地下の不透水層(深さ 10m)まで到達する遮水壁(幅 50cm、深さ 11m)の造成工事を行います。(TRD 工法およびソレタンシュ工法、延長約 1,400m)
- ・併せて、区域内の既設・新設の井戸を利用し、地下水を汲み上げることにより域内の地下水位を下げ、水の漏出防止に万全を期します。汲み上げた地下水は排水処理工程にて適正に処理いたします。
- ・また、クロム塩製造工程跡地部分は、既に大部分がアスファルト舗装されておりますが、未舗装部分についても舗装工事を行い、雨水の浸透を防止いたします。

以上により、工場敷地外への将来的な漏出を遮断いたします。また、工事後は区域外側においてモニタリングを継続いたします。

(2) 区域 B（土壌含有量試験及び地下水試験に不適合はなく、土壌溶出量試験のみ基準不適合）

- ・現時点では直接的な環境への影響はございません。現状の維持を確認していくため、今後地下水のモニタリングを継続し、万全の体制を敷いてまいります。
- ・モニタリングにおいて、状況悪化の兆候が見られた場合は、区域 A と同等の対策を検討いたします。

2）応急措置

(1) 区域 A（土壌含有量試験及び地下水試験にて一部基準不適合）

地下水試験において最大値を示した地点付近の既設の井戸より地下水を汲み上げ、これを排水処理工程にて処理する作業を今後継続的にを行います。また同地点周辺の土壌の除去、浄化作業を至急行います。

(2) 区域 B（土壌含有量試験及び地下水試験に不適合はなく、土壌溶出量のみ基準不適合）

現時点では直接的な環境への影響はございませんが、万全を期するため同区域に覆土を施し、汚染の飛散を防止いたします。

弊社は昭和 44 年（1969 年）徳島工場においてクロム塩生産開始以来、今日に至るまで関係法令を遵守し、適正な操業をしてまいりました。これまで自治体（徳島県及び阿南市）の行った工場周辺の環境調査においても問題は認められておりません。今般、事業譲渡により同工場でのクロム塩生産を終了することとなり、環境に影響を与える可能性は更に小さくなるものと考えます。同工場はクロム塩生産終了後も合金鉄等の生産拠点として操業を継続し、引続き万全な環境保全体制を敷いてまいります。

問い合わせ先 : 総務部 TEL 03-3546-9319

以 上